

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 343 回 民主党とマスコミ業界 ~高支持率の裏側で

2009.12.20

自由な連載コラムに政治ネタはあまり歓迎されない。とりわけ女性には不人気であることは知っている。が、書かずにいられなかったゆえ、今回も政治ネタである。

何かマスコミがおかしい...と思えて仕方がない。

特に民主党に関する政治報道とその支持率の高さである。

最近の民主党報道、マスコミに登場する言葉は、...偽装、不正、虚偽、迷走、威圧、不明確、修正、無策、そして、反日思想、社会主義的、労働組合主導、特亜(実際は中国、韓国、北朝鮮)偏重、拳句の果てには癒着、裏切り、限界...と続くとすれば、もう、自民党との優位性が全く見えなくなってきた。

にもかかわらず、相変わらず鳩山内閣支持率は低くない。さすが減少傾向になってきたとはいえ、読売新聞の支持率は 59% (12月6日)、TBS系 JNN は 64.1% (12月6日)、フジテレビ系も 56.4% (12月10日)と高い支持率を誇っている。オバマ大統領の支持率 49% (11月20日ギャラップ調)と比べるとまだまだ、たいしたものである。

一方、ネット系調査では Yahoo リサーチ支持率 51.7%、不支持率 25.3% (11月30日)、更に、最新の時事ドットコムでは、支持率 46.8%、不支持率 30.3% (時事通信社、12月14日)と、初めて支持率が過半数割れ、不支持が3割を超えたことになる。ネットの世界と大マスコミとの差が伺える結果である。

何回も言うが小生、自民党员でもなく嫌民主党でもなく、全くニュートラルである。あくまで日本人として、この日本で生活する、中小企業者としての立場で、政治にはすこぶる関心がある。意思的に政治に参画し、現状政治をチェックすべきは、民主主義社会の一員としては当然の義務であると思っている。日常的に政治談議を繰り返すが、私の周辺で熱狂的に民主党を支持する人にあつたことがない。当然、小生の人的ネットワークの中での話し、そのような考え方とのお付き合いがないということなのだろう。が、それにしても、このような高い支持率が不思議でならない。

冒頭に述べた通り、確かにマスコミは、民主党に対しても連日のようにキツイ言葉が連発される。しかし、どうもマスコミの姿勢が変なのである。

少し曲がった見方かもしれないが、民主党にとって不利な情報は前政権に比べ沢山あるのに、報道される頻度、時間ともに非常に少ないと思う。しかもコメンテーターがやんわりと擁護して次の話題に移る。漢字の読み間違い、プレたと、麻生政権では飽きるほど報道された。今の鳩山首相は空気の読み間違いで、毎日毎日ほんとに日替わりでプレているにもかかわらず、マスコミは実に寛大である。

11月27日、テレビ朝日の番組『スーパーモーニング』が「鳩山首相が審議そっちのけで衆議院本会議中に扇子に揮毫(きごう)する一幕があつた」というニュースを報じたが、このニュースに対してコメントした、作家・吉永みち子氏が「我々も(民主党の)支持率を下げないでね、辛抱して支えてるのに、何なんだよ」と発言し、インターネット上で大問題になった。あたかも、テレビ朝日が民主党の支持率を下げないように、今まで支えてきたかを明らかにしてしまったような発言で、更には、「テ

レビ朝日が今まで民主よりの偏見報道をしてきた裏付けだ」といった憶測もされ、大騒ぎである。

小沢幹事長の640人隷属的遣唐使外交にしても、天皇政治利用発言にしても、報道に携わる人達はいつから反日(親中・新韓)に変わってしまったのだろうか。スポンサーの意向もあるのか、ニュースやワイドショーでもっと取り上げるべき事柄だと思うのだが、冷笑的ニュースで終わりにし、本質的批判、論議は巻き起こらない。そのテレビ大好き日本人にとっての国民世論、内閣支持率調査というのは、報道による印象が大きく作用するであろう。マスコミ内部や周辺に、民主党寄りの流れを作っている人達がいるとすれば、恐ろしいことである。(注:推測・冗談の域を出ない)

また、民主党議員の中にはマスコミ出身者が多いというのも、従来の政党と相違点の一つである。長妻昭大臣が、日経BP社の「日経ビジネス」出身なのは有名。ニュースキャスターとして活躍した蓮舫氏(日テレ、テレビ朝日等)ほか、郡和子氏(東北放送出身)、小宮山洋子氏(NHK出身)など、放送局の正社員ではないラジオのパーソナリティーなどを含めると、少なくとも20人以上がマスコミ出身者といわれている。地方レベルでは民主党が推薦した平松邦夫大阪市長(毎日放送出身)吉田宏福岡市長(西日本新聞出身)等がいる。いずれにしる人脈があること、間違いないだろう。

こんな馬鹿げた連想をする人がいた。...民主党がマスコミの利権のために働く、マスコミは民主翼賛報道で支援し不利益な内容は伝えない、一言で言えば「マスコミとの癒着」...これも憶測や下手すると中傷・誹謗とも言われるが、このような批判が起こるような事態は絶対避けなければならない。

民主党高支持率の最大の貢献は、「事業仕分け」だといわれている。「政策決定プロセスをオープンにしている。自民党にはできなかったことだ」と有権者に対してはもちろん、テレビ業界に対しても大きな貢献を果たした。実際はこの事業仕分け、日本の予算や経済にはほとんど影響しない。国民に対するパフォーマンスにしか過ぎないと思っている。しかし、経済に影響がないとはいえ、このパフォーマンスは大成功で、国民に非常にわかりやすい。これを、テレビを含めて色々なメディアでオープンにした。そのイメージ効果が高支持率を支えていると思っている。

自民党に霹靂(へきれき)し訣別の1票を投票した3,300万人の有権者、その結果が今の民主党政権。今国民(有権者)は、何とかしてくれ!との期待を実現してくれる政治を、待ち望んでいるだけである。自民党でも、民主党でも、あるいは大連合の政変新党でも、どちらでもいいのである。

政治のこと、我々には何もできないよ...そう、思い込んでいる有権者は沢山いるだろう。でも少なくとも民主主義社会を構成する日本の政治システムであれば、政治の原点は有権者=国民にある。

だから基本的には、我々有権者が毅然としてこの国の改革を担っていくという、強固な意思とスピーディな実行力を持つ必要がある。積極的に政治に参画し、明確な意思表示を政治家に託し、その実績を常に評価・監督する。ご都合主義のマスコミには同調せず、偏重のない客観的情報収集に努め、確固たる信念に基づく判断と行動を取る、いって見れば、本物の民主主義の原点に立ち戻った行動を取っていけば、我々に不利な未来は訪れるはずがない。

そうはいつでも、中々現実的には難しいものがある。飯島さんみたいな考えは稀(まれ) 実際は政治なんてねえ...折角、厄介なコラムをここまで読んできて、最後の感想がいつもこれで終わる。結局何も変わらない。いつまでもそれで良いのだろうか!といつつも、往生際(おうじょうぎわ)の悪い小生、変わる動きが一人でも、二人でも出てくるまで、コラムで訴えていきたいと思っている。